

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	厚木市立病院	階数	地下1階、地上7階
建設地	厚木市水引一丁目199番ほか16筆	構造	RC造
用途地域	近隣地域・第1種住居、準防火地域	平均居住人員	2,150 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2017年11月 竣工	評価の実施日	2018年5月25日
敷地面積	18,386 m ²	作成者	(株)日本設計
建築面積	5,801 m ²	確認日	2018年5月25日
延床面積	32,430 m ²	確認者	(株)日本設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項	
総合 ①現地建て替えによる制約を感じない理想的な病院であること。建物を敷地中央に計画し、まちなみ・景観に貢献すること。②医療ニーズの変化に追従できるフレキシビリティがあること。③自然環境の要素を感じられるなど、人間が療養し活動するにふさわしい豊かな環境であること。④高効率で省エネルギーな設備システムとし、長期的な視点から経営に資すること。⑤工事期間中の患者・周辺環境への負担軽減のため工期を短縮すること。	その他 ①洪水対策として免震クリアランス擁壁を立上げ ②埋設タンクの上を緑化し景観に配慮 ③内部拡張スペースを確保
Q1 室内環境 ①日射遮蔽及び断熱性能 ②屋光の積極的導入 ③プラインド・庇による屋光制御 ④自然換気性能の確保 ⑤館内全面禁煙 ⑥屋上給気口からの新鮮外気導入 ⑦ダブルロイル式外調機の採用	Q2 サービス性能 ①十分な広さ ②2.6mの天井高(病室) ③コンセプトに基づく内装計画 ④CGパース検討 ⑤維持管理しやすい仕上材・機能 ⑥免震構造 ⑦3.9以上の階高 ⑧複合熱源システムによるリスク分散 ⑨耐震クラスSの設備
LR1 エネルギー ①建物の熱負荷を抑制(PAL値214MJ/m) ②病棟にライトウェルを計画 ③BEMSの導入	LR2 資源・マテリアル ①非構造部材にリサイクル資材を採用 ②スチールパティション等の採用による再利用可能性向上 ③ODP=0かつGWP<50の断熱材の採用
	LR3 敷地外環境 ①外構の積極的な緑化 ②十分な駐車・駐輪台数の確保 ③専用駐車場の設置 ④滞留長の確保 ⑤風環境シミュレーションにより風害を抑制 ⑥低排熱な設備機器の採用

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される